

横井孝先生退職記念



横井 孝 略歴ならびにその仕事

予てより尊敬の念を抱いている高田信敬氏、定年退職に臨んで「略歴」(『国文鶴見』第五二号・高田信敬教授退職記念号)に曰く、昭和二五年生まる、

昭和五二年東京大学大学院博士課程中退(成業の見込みなき為)、と。そこに記された略歴は、たったの二行。簡にして要を得るとはこのことか。しかし、業績欄は、初期から退職直前まで、堅牢無比の論考が著書二冊、論文一一三編と隙間もなく並ぶ。しかし、恐らくこれも厳選。アステリスクを付けた補記に「その他展示目録・資料紹介・書評等約五〇篇および講演は省略」(傍点横井)とある。略歴の簡略なもの、内なる誇りがあればこそ。

下って横井孝はどうか。内に誇れるものもなければ、外に出したはずの「仕事」もこうして並べれば貧弱この上なく、情けないこと甚だしい。ただ、定年を一応無事に迎えられる、退職時の恒例とはいえず、こうした一覧を掲載してもらえるのも一生に一度。

せっかく機会である。中途半端な人生を締めくくるのに相応しいかどうかはともかく、自らの記念のために恥を忍んで茲に一部を開陳する。

横井孝の略歴

一九七七年三月 駒澤大学大学院人文科学研究科国文学専

攻博士課程単位修得退学

一九七七年四月 十文字学園高等学校教諭

一九八〇年四月～一九八二年三月

駒澤大学文学部非常勤講師

一九八三年四月 静岡大学教育学部専任講師(職位は「講

師」だが非常勤ではないの見栄が「専任」

の二字)

一九八六年四月 静岡大学教育学部助教(この時代はま

だ「助」の字を用いる)

一九九三年四月～二〇〇二年三月

静岡県女性総合センター懇話会会長(記

憶が確かならば「初代」のはず)

一九九六年四月 静岡大学教育学部教授

二〇〇〇年四月 実践女子大学文学部教授

二〇〇六年四月～二〇〇七年三月

人間文化研究機構国文学研究資料館客員
教授

二〇〇六年一月～二〇〇七年三月

お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師

二〇一二年一月～二〇一三年二月日

東京大学文学部非常勤講師

二〇一五年四月～二〇一六年三月

学習院大学文学部非常勤講師

二〇二〇年三月 実践女子大学定年退職